

第3回 やすらぎ荘の 今後に向けた説明会



2025年（令和7年）1月31日
藤沢市 高齢者支援課
やすらぎ荘

◆説明会の趣旨◆

みなさまにお時間をいただき、2回にわたる説明会を実施いたしました。55年経過するやすらぎ荘について、運営側である藤沢市から、建物の状況やコスト面などの課題をお伝えし、ご利用者様から施設の利用状況やご要望について、お聞かせいただいたところでございます。

ここから一旦、10月と11月に開催しました説明会の内容と、いただいたご意見について、共有させていただきます。



◆第1回説明会について（10月24日）◆



【やすらぎ荘の様々な課題の共有】

- ・施設の老朽化：55年経過、エレベーターがないなどバリアフリーに対応しきれていない
- ・利用者数・新規登録者数の減少：

利用者数	平成24年度	75,680人	令和5年度	39,230人
新規登録者数	平成23年度	1,649人	令和5年度	893人
- ・利用者の固定化：令和5年度 実利用者数 1,267人
- ・施設のランニングコスト：令和5年度 75,027,666円

◆第1回説明会でいただいた主なご意見◆

- ・利用者が60歳以上に限定のため、サークル会員が減少している。
複合施設にするならば、年齢制限も考慮してほしい。
- ・介護予防としてこの施設ほど呼び込みやすい施設はない。
- ・費用面は考えずの意見となるが、カフェやスポーツ施設などの複合施設を作ってほしい。

58名の方にご参加いただきました。



◆第2回説明会について（11月20日）◆



【建替や廃止などを仮定し情報交換を行いました】

- ・利用者の将来推計：令和15年推計値52,010人。
- ・他市の状況：共生型に見直し、統廃合の検討が多い。
- ・本市の考え方：より身近な地域において、機能別にサービスを提供できる方向に転換。

今後の3つの想定

- ①建替え：多世代の方と交流ができる「共生型」
- ②継続使用：延命化の検討は行わない予定
- ③廃止：やすらぎ荘に代わる、より身近な場所での活動・交流の場

◆第2回説明会でいただいた主なご意見◆

- ・ 部員数も多く、陶芸窯の規模も大きいため、陶芸室は残してほしい。
- ・ 食堂がなくなったことも、利用者減少の原因ではないか。
- ・ 利用者数減少をとどめるため、カラオケなど、コロナ禍前の人気講座を復活し、活性化を図ってほしい。
- ・ 近所付き合いもあまりないため、交流の場が広がるとは思えない。

13名の方にご参加いただきました。



◆第4次藤沢市公共施設再整備プランについて◆

2024年11月の藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会において
素案の報告を行っております。



1. 短期プラン（令和7年度～令和10年度）

やすらぎ荘が該当：機能の必要性、施設規模の検討、統廃合の検討、
複合化の検討など、掲載しております。

2. 長期プラン（～令和15年度）

高齢者支援施設（全体）として掲載：老人福祉センターのあり方について、国の施策としての方向性も示しながら説明をしております。

◆第4次藤沢市公共施設再整備プランについて◆



1. 短期プラン報告内容（抜粋）

- ・機能の必要性：高齢者の生きがいと健康づくりのための拠点施設として、様々な事業を展開し、また、高齢者の孤独・孤立対策として必要な機能を備えています。
- ・施設規模の検討：利用者数は減少傾向にあることや、高齢者のライフスタイルの変化及び社会情勢の影響などを踏まえて施設の検討を行っていく必要があります。

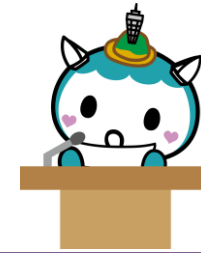
◆第4次藤沢市公共施設再整備プランについて◆



2. 長期プラン報告内容（抜粋）

- ・現状・課題：高齢者の居場所について、国の施策においても、高齢者が徒歩でも参加できるような範囲で小規模（地域の縁側など）に集う場所の設置を数多く進めていく方向となっています。これを踏まえ、老人福祉センターなどの大規模な施設のあり方については、施設の統合や機能の整理を含め総合的に検討する必要があります。
- ・公共施設のあり方：一人ひとり、自分らしい時間の過ごし方が尊重され関わりすぎずかつ寄り添った支援があり、万一というときの困りごとの相談ができる身近な居場所があること。

◆ 1 2月議会での報告について ◆



1. 老人福祉センターの現状と課題
2. 「老人福祉センターのあり方に関するアンケート」
実施概要
3. 藤沢市高齢者施策検討委員会(※)での意見
4. 老人福祉センターのあり方及び今後の方向性

※藤沢市高齢者施策検討委員会：高齢者に関する福祉施設・関係機関・関係団体などの代表者や、学識経験者、公募による市民が委員として参加し、高齢者保健福祉計画の進行管理を中心に審議し、施策の推進を図っています。



◆12月議会でいただいた主な質問◆

- ・「心身の健康の保持及び生活の安定のため」にゆったりと老後を過ごしてもらってもいいし、こうした施設は必要なのではないか。
- ・避難所がすべて開設できるとは限らないので、数多く確保するという観点も必要なのではないか。
- ・入浴事業を廃止の方向性とのことだが、老人福祉センターでの入浴は高齢者の衛生面と見守りの面での必要性があると思うが、廃止することでの影響がないのか。

◆参考：湘南なぎさ荘について◆

湘南なぎさ荘については、鵠沼市民センターとの施設統合の方向でご利用者様への説明会を行っております。

＜湘南なぎさ荘＞
鵠沼海岸6-17-7



◆今後のやすらぎ荘について◆

建物の継続使用はしない・建替えはしない方向で検討

【主な理由】

- ・継続使用のため耐震等建物の延命措置をしたとしても、各部屋やお風呂などへの工事費や修繕費についてコストがかかり続けること、またランニングコストとしての運営費も年間約7千5百万円の費用がかかること
- ・60歳以上の方が限定された大規模施設での活動から、より身近な地域において、同世代のみならず多世代の方々と交流しながら活動できる施設の利用ができること



◆今後のやすらぎ荘について◆

【今後の方向性】

- ・ サークル団体の活動において必要となる機能（施設・備品等）を一部他の場所へ移転または代替を検討する
- ・ 現存する小規模の身近な居場所を代替として利用する



※「大規模な施設」ではなく、小規模でありながらも、より身近な地域において、機能別にサービスを提供できるよう転換する方向で検討していきたいと考えております。

◆今後の予定◆

令和7年 3月

第4次公共施設再整備プラン策定

秋頃

高齢者の保健・福祉に関する

アンケート調査を実施

令和8年

いきいき長寿プランふじさわ2029

(高齢者保健福祉計画等)策定に向けた検討

→ 高齢者の居場所としての老人福祉センターのあり方について具体的な方向性を提示
(予定)



※説明会や意見交換会などは、今後も必要に応じて開催いたします。

◆今後のやすらぎ荘に代わる居場所の検討について◆

やすらぎ荘におけるサークル活動などの特長を生かしながら、建物の継続使用ができないことを踏まえ、今後の皆様の居場所のあり方について、継続して検討していきたいと考えております。

引き続き、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

ご清聴いただき、ありがとうございました。



◆参考：やすらぎ荘周辺 地域の居場所①◆

＜誰もが気軽に立ち寄れる居場所 地域の縁側＞（善行地区）

・地域交流サロン「ゆい」

本藤沢3-19-5

石原谷市民の家



・ほっとスペースすみれ

藤沢3800 松本店舗

・えん

本藤沢6-5-18



・カフェ「はまゆう」

善行6-19-51

福祉クラブ生協藤沢センター3階

◆参考：やすらぎ荘周辺 地域の居場所②◆

<地域の縁側 介護予防特化型>

- ・わいわい善行(善行1-26-5)
健康体操・麻雀・リメイク等講座・
サロンなどを実施



<地域ささえあいセンター>

- ・かるがも(城南4-9-8城東ビル ラポール城南1F)
福祉相談・各種講座の開催

- ・善行市民センター
- ・湘南大庭市民センター
- ・湘南大庭市民図書館
- ・市民の家
- ・地域の老人クラブ
- ・石名坂温水プール
- ・いきいき運動グループ
- ・個別運動サポート